

アマチュア無線の指導監督

笠原功一

戦前並に戦時中のアマチュア無線がどんな主張と実績とを有し、如何なる取扱を国家から受けていたか、又いささかでも日本の為寄与する処があったらうか。戦前アメリカのラジオ・アマチュアが2万と称せられていた時、我国のラジオ・アマチュアは約200であった。この二つの数字こそは端的に日米両国の科学性の大きさを示す比率であると思う。

我国民の科学性の欠如のさげられるや既に久しいことであつた。これに就いて今更述べようとは思わないが、ただ一言社会の科学性又は科学的認識更に科学への親しみを向上する手段として、アマチュア・ラジオの普及が有力な一方法であるという事は私の年来の信念である。

先ず我々が思出すのは戦前通信省によって行われていた実験無線の取締である。私は戦前の我国のアマチュア局が200にも足らなかったことに極度の不満を感じる者であるが、たった200しか存在し得なかった原因の主なものは当時の通信省のこの方面に対する無理解・無方針にあつたと信ずる。

アマチュア無線はもっと広い視野を有つべきものであつて、単に通信の面のみの取締をしただけではそこに何等建設的意味がない、指導監督というところへは程遠い訳である。戦前我国のアマチュア無線は国家の意志で指導され機会も機構も有しなかつた。監督は行われたが、これは向上を目指す監督ではなく、単に退歩——良くても足ぶみを来す監督でしなかつた。

今までのような考え方で不得要領な「実験無線局取締」が再開されるようなことは、決して国家百年の計に非ざるを確信し、今から当路諸賢並に無線愛好者諸君に訴える次第である。

PDF化にあたって

本PDFは、

『無線と実験』1946年2月号

を元に作成したものである。

PDF化にあたって、旧漢字は新漢字に、仮名遣いは新仮名遣いに変更した。漢字の一部には振り仮名をつけた。

ラジオ関係の古典的な書籍及び雑誌のいくつかを

ラジオ温故知新(<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/index.html>)

に、

ラジオの回路図を

ラジオ回路図博物館 (<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/radio/radio-circuit.html>)

に収録してある。参考にしてほしい。